

第1回

仙台市震災復興メモリアル等検討委員会

平成25年7月2日

仙台市復興事業局震災復興室

これまでの震災復興メモリアルに関する取組状況

仙台市震災復興計画「100万人の復興プロジェクト」

仙台市震災復興計画「100万人の復興プロジェクト」

5「美しい海辺を復元する」海辺の交流再生プロジェクト

- ① シンボルとなる海岸防災林の復元
- ② 貞山運河の復元

10「震災の記憶を後世に伝える」

震災メモリアルプロジェクト

- ① 震災の記録の集積と活用
- ② アーカイブ、情報発信の拠点整備
- ③ 東部沿岸地区へのモニュメント整備
- ④ 震災の記憶・復興の姿を広く発信、子どもたちをはじめとする幅広い市民との協働による推進

震災発生後の様々な動きや取り組み

震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・ 各被災地における震災遺構の保存に向けた取り組み
 - メモリアル公園（女川町）

町中心部の要所に、津波浸水の到達標高標示等を行い、町民や観光客に津波浸水の実態を伝え、災害や防災意識の向上を図る。

町中心部に、被災した施設を災害遺構として保存し、被災者慰霊碑、メモリアル公園を整備。

津波により倒壊したビルは、津波研究においても貴重なものであり、町民の声を尊重しながら、その保存に努める。



震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・ 各被災地における震災遺構の保存に向けた取り組み

- 高田松原の一本松（陸前高田市）

約7万本と言われる高田松原もほとんどが流されてしまったが、その中で唯一耐え残ったのが「奇跡の一本松」

奇跡的に残った一本松も、海水により深刻なダメージを受け、平成24年5月に枯死が確認。

しかし、震災直後から、復興のシンボルとして親しまれてきた一本松を、今後も後世に受け継いでいくために、モニュメントとして保存整備するもの。



震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・ 国や民間企業等によるアーカイブの発信

- 「みちのく震録伝」 (東北大学)

- 今回の震災の被災地を中心に、歴史的な災害から東日本大震災まで、様々な視点から集められた記憶、記録、事例、知見をもとに、分野横断的な研究を展開し、東日本大震災の実態の解明や復興に資する知見の提供を進める。

- 「NDL東日本大震災アーカイブ」 (国立国会図書館)

- 東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ伝え、被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策に役立てるために、関連する音声・動画、写真、ウェブ情報等の包括的な検索ができるアーカイブ。

- 「震災アーカイブ」 (河北新報)

- 東北大学災害科学国際研究所の支援のもと、新聞記事や報道写真のほか、市民の方々が撮影した写真や動画などを収集・保存・整理し、可能な限り順次公開し、震災の教訓が語り継がれ、今後の防災・減災に役立つことを目的としたアーカイブ。

震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・ 国や民間企業等によるアーカイブの発信
 - 3.11キヨクのキロク（20世紀アーカイブ仙台）

3.11
キヨクの
キロク

市民が記録し市民が残す震災メモリアル・プロジェクト



(上)2011年3月15日松島瑞巖寺山門前(撮影／福田沙織さん)
(下)2013年1月13日1年10ヶ月後同場所観光客が戻ってきた



NPO法人20世紀アーカイブ仙台

震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・ 国や民間企業等によるアーカイブの発信
 - 3.11キヨクのキヨク（20世紀アーカイブ仙台）

伝えつづけるために必要な3.11アクション

1.撮る（定点観測）



2.集める（画像収集）



3.語る（拠点づくり）



4.聞く（オーラルヒストリー）



5.編集する（キーワード）





6.観せる（展示会）



震災発生後の様々な動きや取り組み

- 文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
 - 大震災復興支援プロジェクト (MMIX LAB)



大震災復興支援プロジェクト

The Project to Support Reconstruction to a Great Earthquake

今後、震災からの復興段階ではアートの果たす役割は限りなく大きくなっていきます。
アートとまちづくり アートと福祉 アートと環境 アートと子ども アートと就労支援…
MMIXは国内外のアーティスト、クリエイター、芸術文化関係者やアートNPOをはじめ福祉やまちづくりNPO等と連携しながら強力に復興支援を行ってまいります。

>>> English

- MMIX Labとは?
- 活動報告
- 大震災復興基金
- リンク
- UG計画
- Ai (アーツ・イン)
- NPO+

一般社団法人MMIX Labは、既存の芸術の枠組みにとらわれず、各種メディアを融合させ、アートと地域文化を結び創造的芸術活動を行っています。また、市民や企業、行政等と協働で新しい公共としての社会システムを形成していくことを目指しています。
< リーフレットダウンロード >

一般社団法人MMIX Lab (ミミックスラボ)
980-0802 仙台市青葉区二日町6-6-201
代表：村上タカシ (MURAKAMI Takashi)
info@mmix.org 070-6970-1976

震災発生後の様々な動きや取り組み

- 文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
 - 3.11メモリアルプロジェクト (MMIX LAB)

3.11メモリアルプロジェクト 3.11 Memorial Project (のこす)

場所：宮城県仙台市内 被災沿岸域 (参考写真上：宮城県石巻市／下：宮城郡七ヶ浜町)



期間： 2011年4月～ ※長期的、半永久的なメモリアル展示・保存を目的とした活動。

震災発生後の様々な動きや取り組み

- 文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
- Re:プロジェクト（市民文化事業団）

ここはどのような場所で、どんな暮らしがあったのだろうか
地域資源を再発見／再認識／再考する



〈主催〉仙台市・公益財団法人仙台市市民文化事業団

3つの取り組み

- ① 『RE:プロジェクト通信』の発行
- ② 「想う／考える／おしゃべりする会」の実施
- ③ 「オモイデゴハン」の実施



震災発生後の様々な動きや取り組み

- 文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
 - 「宮城・東北Dream Project」（ベガルタ仙台）

ベガルタ仙台ホームゲームの2011年より、「ドリームシート」と命名し、バスで直接送迎し、東日本大震災で地震、津波の被災地のこどもたちを毎試合一定数招待するプロジェクト



震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
- ベガルタ仙台レディース創設（ベガルタ仙台）

「東京電力女子サッカー部マリーゼ」が東日本大震災の影響により休部したことを受けて、ベガルタ仙台運営会社がマリーゼの受け皿として創設。



震災発生後の様々な動きや取り組み

- 文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
○がんばろう東北 被災地招待事業（楽天イーグルス）

バスで直接送迎し、東日本大震災で地震、津波の被災地のこどもたちを定期的に試合観戦に招待。

試合観戦終了後には、選手との交流会などを開催。



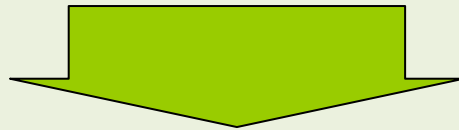
震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・ 文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
 - スポーツチャリティーマッチ等の開催
 - ・ bjリーグ がんばろう東北 復興支援ゲーム (2011年4月)
 - ・ 東日本大震災復興支援ベースボールマッチ (2012年3月)
 - ・ 日本プロサッカー選手会 チャリティーサッカー2012 (2012年12月)
 - ・ bjリーグ 東日本大震災復興祈念ゲーム (2013年3月)



震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・ 各被災地における震災遺構の保存に向けた取り組み
- ・ 国や民間企業によるアーカイブの発信
- ・ 文化・芸術・スポーツによる復興に向けた活動



「震災の記憶」

「震災前の暮らしや人々の記憶」

「復興に立ち向かう思い」

これらを留めるための
取り組みが必要

||

「復興のシンボル」

震災復興メモリアル等検討委員会の設置趣旨

- ・本検討委員会は、行政計画を策定するための委員会とは異なり、各委員のご意見やアイデアを伺い、市民の皆様とともに震災復興メモリアルに関する取り組みを具体の施策に反映させるため設置するもの。

検討委員会の進め方（案）

- ・第1回は、各委員の知識や経験をもとに、震災復興メモリアルに関してブレインストーミングを行う。
- ・第2回以降は、いただいた意見を集約・整理のうえ、各検討テーマごとに議論を行い、経済性等議論を深めていく予定。

震災復興メモリアル等検討委員会のMission

1 仙台市震災復興計画「100万人の復興プロジェクト」

- 5 「美しい海辺を復元する」
海辺の交流再生プロジェクト

 - ① シンボルとなる海岸防災林の復元
 - ② 貞山運河の復元

10 「震災の記憶を後世に伝える」
震災メモリアルプロジェクト

 - ① 震災の記録の集積と活用
 - ② アーカイブ、情報発信の拠点整備
 - ③ 東部沿岸地区へのモニュメント整備
 - ④ 震災の記憶・復興の姿を広く発信、子どもたちをはじめとする幅広い市民との協働による推進

2 震災発生後の様々な動きや取り組み

- ・各被災地における震災遺構の保存に向けた取り組み
例：メモリアル公園（女川町）、高田松原の一本松（陸前高田市）
 - ・国や民間企業等によるアーカイブの発信
例：みちのく震録伝（東北大学）
3.11キラクのキラク（20世紀アーカイブ仙台）
 - ・文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動
例：大震災復興支援プロジェクト（MMIX LAB）
Re:プロジェクト（市民文化事業団）
復興提言シンポジウム（音楽の力による復興センター・東北）
宮城・東北Dream Project（ヘガルタ仙台）
- 「震災の記憶」

「震災前の暮らしや人々の記憶」

「復興に立ち向かう思い」

を留めるための取り組みが必要

3 震災復興メモリアル検討にあたっての視点

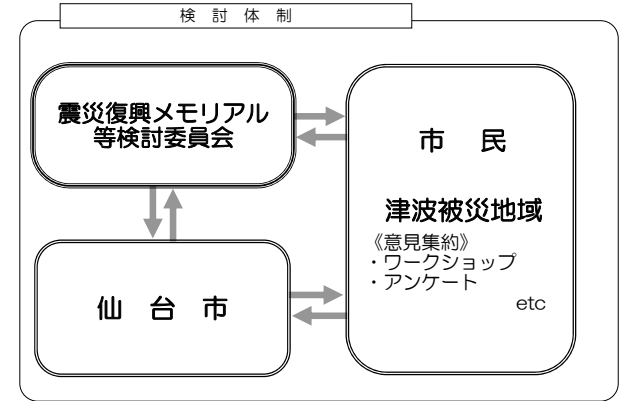
- ・市民が復興の道のりを共に歩むためのシンボルづくり
 - ・震災の教訓を踏まえた「新たな仙台」の発信
- ★ 復興計画のプロジェクトを具体化するため仙の有識者等を委員とする検討委員会を設置

◆検討委員会のMission

復興計画に基づきプロジェクトを市民の皆様と共に推進していくための気運醸成と、各テーマ実現に向けた具体化、深化

◆主な検討テーマ

プロジェクト		
5①シンボルとなる海岸防災林の復元	1 復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元	・東部地域における緑の復元を震災復興のシンボル ・市民参加による植樹行動・苗木の受け入れなどの仕組みづくり
5②貞山運河の復元	2 歴史的建造物としての貞山運河の再整備と活用	・貞山運河を活かし、市民が再び自然と触れ合うことができる魅力的な交流の場づくりのあり方
10①震災の記録の集積と活用	3 写真、デジタルコンテンツ、図書等の情報アーカイブの発信手法・拠点整備	・震災の記憶と復興を後世に継承するためのアーカイブの発信手法と教育現場などでの利活用方針と拠点整備のあり方
10②アーカイブ、情報発信の拠点整備		
10③東部沿岸地区へのモニュメント整備	4 荒浜集落・小学校の遺構保存や中野・糠塚地区のモニュメント整備のあり方	・震災の犠牲者に対する鎮魂と、暮らしや人々の記憶の継承・風化を防ぐモニュメント整備のあり方 ・震災遺構の保存・利活用方針
10④市民協働による記憶・復興の発信	5 震災の記憶・復興の姿を広く発信、子どもたちをはじめとする幅広い市民との協働による推進	



市議会
の議論
を具
体化
地域
意見
を

主な検討テーマ

- 1 復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元
- 2 歴史的建造物としての貞山運河の再整備と利活用
- 3 写真、デジタルコンテンツ、図書等の情報アーカイブ、
図書等の情報アーカイブの発信手法・拠点整備
- 4 荒浜集落・小学校の遺構保存や中野・藤塚地区の
モニュメント整備のあり方
- 5 震災の記憶・復興の姿を広く発信、子どもたちをはじめ
とする幅広い市民との協働による推進

1 復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元

復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元

青葉通・定禅寺通の歴史

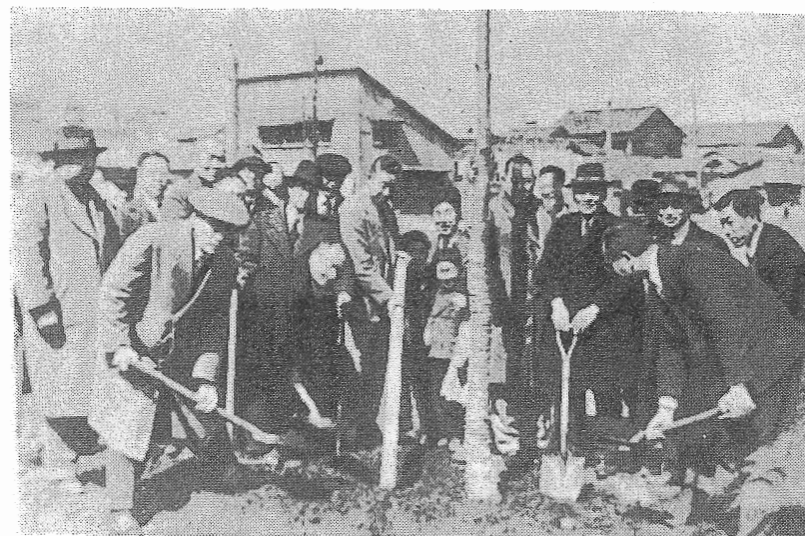
戦災後、「杜の都」の伝統的景観の再生を意図した街路樹を植える事業が進められた。

最も早く植樹が進められた青葉通では全国的な国民活動として展開された「国土緑化運動」の行事に合わせて、市長や50本のケヤキを寄贈した市議会議員が列席して植え初め式が挙行された。

戦災によって焦土と化した旧城下町を、いかにして近代的な都市に生まれ変わらせるか、という壮大な都市計画が戦災直後に練られたことで今日の青葉通・定禅寺通の緑豊かな景観形成が成立している。



85 街路樹にケヤキが植えられて間もない定禅寺通



市議会議員全員より贈られたケヤキの初植え

復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元

「『みどりのきずな』再生プロジェクト」について

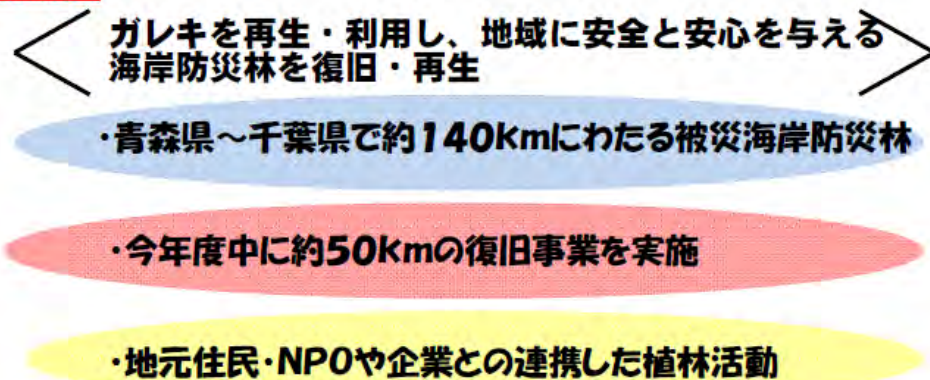


- 野田内閣総理大臣は、平成24年4月23日、「『みどりのきずな』再生プロジェクト」構想として、ガレキを再生・利用し、地域に安全と安心を与える海岸防災林を復旧・再生するプロジェクトを推進していくことを発表。

被災地と支援する方々の間、被災地の人々の間、大震災を経験した今の世代と未来の世代、さらには人間と自然の間などをつなぐ様々な絆を、今回の海岸防災林の再生を通じ形にしていくという意味を込めて、総理により命名。

- 林野庁は、本構想に基づき、準備の整った箇所から順次手続きを進め、被災延長約140kmのうち、今年度中に約50kmについて海岸防災林の再生に着手予定。
- その際には、分別、無害化され安全性が確認された災害廃棄物由来の再生資材も活用しながら樹木の生育基盤を造成。
- 地域の自然条件等を踏まえつつ、NPO、企業等による協力も得ながら植栽等を進める予定。

■構想概要



復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元

プロジェクトの進捗状況(平成24年10月1日時点)



- 青森県、茨城県、千葉県では、昨年度から復旧・再生事業に着手。災害廃棄物由来の再生資材の活用や植樹イベント等も実施。
- 岩手県、宮城県でも本年度から復旧・再生事業に着手。福島県でも事業着手のための事務手続き中。再生資材を活用した基盤整備を実施し、来年春より順次植栽にも着手。

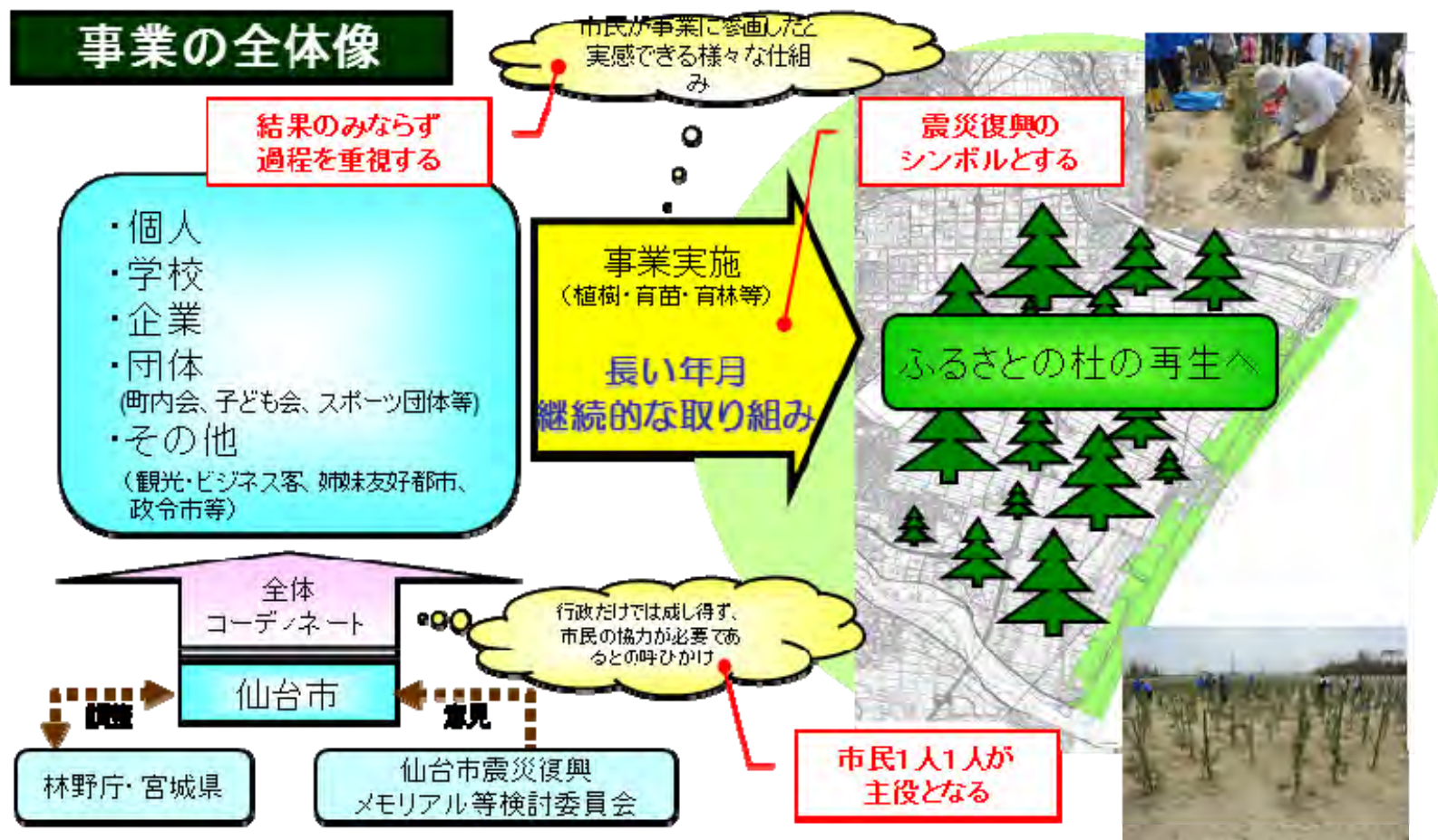


復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元

- 「GREAT FOREST WALL PROJECT 森の長城プロジェクト～ガレキを活かす～」(公益財団法人 瓦礫を活かす森の長城プロジェクト)
青森県から福島県に及ぶ太平洋岸に、ガレキを活用して盛土を築き、その上にシイ・タブ・カシといった土地本来の照葉樹、低木・草花からなる森を育て、巨大津波から命を守る森の防潮堤を築いていくことをめざすプロジェクト。
- いのちを守る森の防潮堤(いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会)
沿岸部に被災瓦礫と土を混ぜて埋め盛土して高台をつくり、そこに土地本来の高い木から低い木まで色々な種類の木々を植えて多層構造の森を形成し、津波から私たちの生命と心と財産を守ろうという構想のもとに活動するプロジェクト。
- 「つながる森プロジェクト」(毎日新聞社)
防災と環境保全の両面から「いのちを守る森づくり」の再生を目指す「つながる森プロジェクト」を進めている。
- さくら並木プロジェクト(NPO法人さくら並木ネットワーク)
東日本大震災の津波到達最高地点に桜並木を植樹し、100年後の未来に津波の被害を伝承する事を目的とする。

復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元

- 植樹や苗木の寄贈・寄付金等の問い合わせについて、これまでに国内外問わず個人・民間企業等から70件以上いただいている。
- 復興のシンボルとなる東部地域の緑の再生事業イメージ



2 歴史的建造物としての貞山運河の再整備と活用

歴史的建造物としての貞山運河の再整備と利活用

貞山運河の歴史

貞山運河（木曳堀、新堀、御舟入堀の総称）、東名運河、北上運河は、阿武隈川から旧北上川まで、全長約49 kmにわたり仙台湾沿岸を繋ぐ日本一の運河群。

古くは、舟運を目的として江戸時代に建設が始まったもので、現在では治水や利水といった機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産として、多くの方々に愛されてきた。



図 1-1 仙台湾沿岸地域における運河群位置図（貞山運河，東名運河，北上運河）

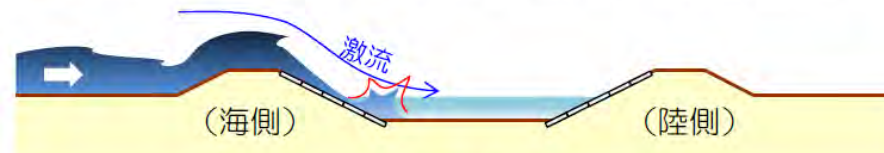
歴史的建造物としての貞山運河の再整備と利活用

津波被害

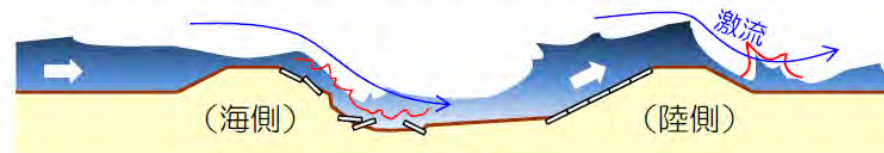
貞山運河をはじめとする運河群は、強烈な地震動による被害に加えて、その後に来襲した大津波により甚大な被災を受けた。

運河群の被災状況は、周辺の地形や海岸防災林の有無、海岸からの距離などによって異なるが、主な被災形態として、海側の堤防では表法面（運河側の斜面）で護岸や土羽が流出しており、陸側の堤防では逆に裏法面（運河背後の斜面）で被害があった。

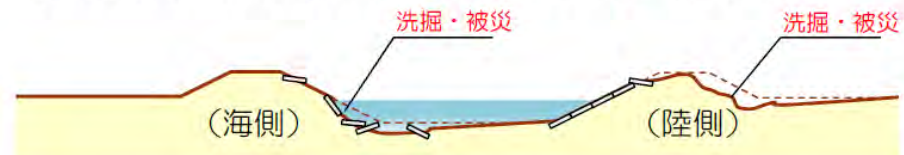
①大津波の来襲で、海側の堤防を越流して表法面で激しい流れが発生。



②津波が陸側の堤防を越流し、裏法面に激しい流れが発生。



③海側の堤防では表法面に、陸側の堤防では裏法面に被害が生じる。



歴史的建造物としての貞山運河の再整備と利活用

津波被害

七北田川と名取川を結ぶ新堀では、多くの区間が、有堤形状であり、破堤や護岸流出、土羽侵食等の甚大な被害を受けた。

七北田川との合流点に設置されていた南閘門については、門柱ごと完全に流失。

井土浦に面した区間では、浦と運河を分かつ小堤の松並木が、美しい景観を成してたが、多くの箇所破堤し、松並木も失われた。



図 2-2 貞山運河沿川の自然環境

〔左：新堀のクロマツ林、右：蒲生干潟（共に震災以前）〕



図 4-7 新堀の被災状況

〔上左：南閘門の流出、上右：井土浦の区間、下：荒浜地区〕

歴史的建造物としての貞山運河の再整備と利活用

➤ 貞山運河再生・復興ビジョン（平成25年、宮城県策定）

現状と課題

【被災状況】東日本大震災、壊滅的な沿岸地域の被害、運河群の被災
【歴史】築造400年を超える歴史、舟運から陸運への変化、県民の認識不足、情報発信
【地形・自然環境】特徴的な地形、湿地環境・野生動植物・生態系の震災による喪失・変化
【風土・景観・文化】クロマツ林の被災による景観の変化、田園風景の喪失、居住地域の移動
【利活用】運河群の認識の低さ、地域毎の限定的な利用、災害時の避難システムの必要性
【社会条件】交通ネットワークの形成、震災での支援、国内外との絆（広域連携）

基本理念

運河群（貞山運河・東名運河・北上運河）の歴史を未来へと繋ぎ、
運河群を基軸とした“鎮魂と希望”の沿岸地域の再生・復興

基本方針

人と自然と歴史が調和した、
人々が集う魅力的な
沿岸地域の復興

自然災害に対して粘り強い、
安全・安心な沿岸地域の再生

【4つの基本目標】

- ① 地域にとって誇りある歴史的な運河群としての再生
- ② 自然災害に対して粘り強く強靱な沿岸地域の構築
- ③ 自然環境と調和し共生できる、運河周辺環境の保全・再生の推進
- ④ 継続的な地域間の連携と、未来に向けて発展できる社会環境の構築

歴史的建造物としての貞山運河の再整備と利活用

➤ 貞山運河再生・復興ビジョン（平成25年、宮城県策定）

10の主要施策と推進体制

【基本目標1】

- ・運河群にふさわしい景観の復元・創出
- ・運河群と調和したまちづくりや施設整備の展開
- ・歴史的な遺構の保全と復元

【基本目標2】

- ・計画を超える災害に対して粘り強い地域社会の構築
- ・多重防御による総合的な防災力の強化

【基本目標3】

- ・自然と共生したまちづくりや施設整備の展開
- ・運河群にふさわしい水質への改善

【基本目標4】

- ・沿岸地域の利活用発展を支える交通ネットワークの整備
- ・未来に向けて発展できる社会環境の構築
- ・国内外との“絆”の強化と、“共感と参加”の拡大

推進体制

貞山運河再生・復興推進会議

【期別の目標】

→ 短期：被災した運河群および沿岸地域の一日も早い復旧、復興理念の共有化と参加

→ 中期：運河群および沿岸地域における“集いの場”の再生と、広域的な連携の拡大

→ 長期：運河群の歴史を未来へと繋ぐ、100年先を見据えたビジョンの発展

3 写真、デジタルコンテンツ、図書等の 情報アーカイブの発信手法・拠点整備

写真、デジタルコンテンツ、図書等の 情報アーカイブの発信手法・拠点整備

せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」
映像 568本、写真 17,236枚、その他（音源、冊子等）36点を収集
日本語及び英語のウェブサイトで一部資料を公開

smt

3がつ11にちをわすれないためにセンター

<http://recorder311.smt.jp/>
<http://recorder311-e.smt.jp/>

3がつ11にちをわすれないためにセンター
2011.5.3 から 2013.3.31 までの活動報告書

「せんだいメディアテーク」は、日本最大規模の映像・写真・音源・図書等のデジタルアーカイブを保有する施設です。震災後、被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動として、2011年5月3日に「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設しました。このセンターでは、震災前後の映像・写真・音源・図書等のデジタルアーカイブを収集・保存し、被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動を行っています。また、被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動として、2011年5月3日に「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設しました。このセンターでは、震災前後の映像・写真・音源・図書等のデジタルアーカイブを収集・保存し、被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動を行っています。

活用する 7
おすれんじ DVDパッケージ
「震災と闘」で上映した、おすれんじ参加者による記録映像のうち15本をDVDパッケージ形式で収録できるようDVDにまとめたものです。震災後の風景、人々の暮らし、揺れる被災地、多岐な視点で記録された映像です。
[ウェブサイトで未公開の映像です]

活用する 8
おすれんじに発信された記録
映像 568本
写真 17,236枚
その他 36点
日本語ウェブサイトで公開済みの記録映像 454件
写真 622枚
音源 36本
英語ウェブサイトで公開済みの記録映像 120件
写真 37枚
音源 5本
参加登録者 140名
2013年3月31日現在

活用する 9
おすれんじの映像を思い出させる
「おすれんじ」の映像を思い出させる。被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動として、2011年5月3日に「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設しました。このセンターでは、震災前後の映像・写真・音源・図書等のデジタルアーカイブを収集・保存し、被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動を行っています。

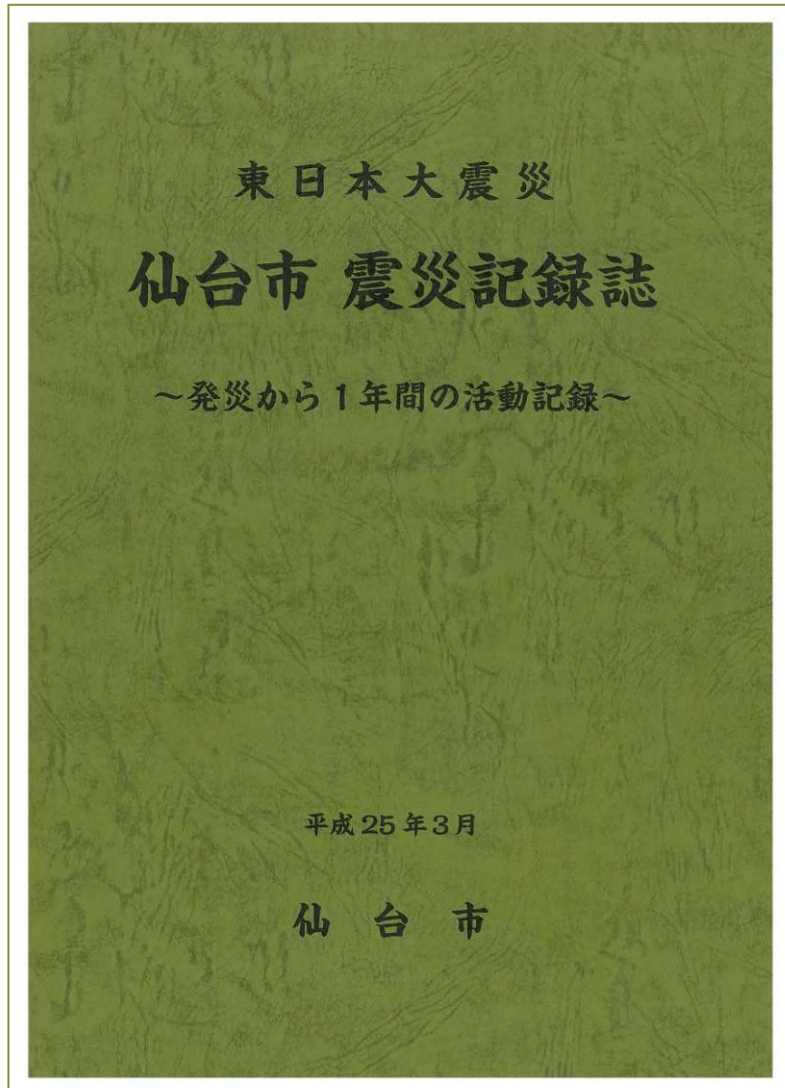
活用する 5
おすれんじの映像を思い出させる
「おすれんじ」の映像を思い出させる。被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動として、2011年5月3日に「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設しました。このセンターでは、震災前後の映像・写真・音源・図書等のデジタルアーカイブを収集・保存し、被災者の生活記録や震災の歴史を伝えるための活動を行っています。

写真、デジタルコンテンツ、図書等の 情報アーカイブの発信手法・拠点整備

東日本大震災 仙台市 震災記録誌 ～発災から1年間の活動記録～

地震発生からの1年間における仙台市の活動等を様々なデータと共に取りまとめた「震災記録誌」を平成25年3月に発行。

今回の震災で体験した貴重な体験・教訓を次世代へと伝え、次の災害への備えとするとともに、行政機関を中心とする国内外の多くの方に発信。



写真、デジタルコンテンツ、図書等の 情報アーカイブの発信手法・拠点整備

「東日本大震災—仙台復興のキセキ」

東日本大震災による被害状況、そして、国内外から寄せられる温かい支援を
かに、厳しい試練を乗り越えて復興へと歩み続ける仙台のまちの姿を、写真
で綴るアーカイブ。

The screenshot shows the official website of Sendai City. At the top, there is a navigation bar with the city logo and name '仙台市 SENDAI CITY'. Below the logo are three main menu items: '市民向け情報' (Information for Citizens), '観光情報' (Tourism Information), and '事業者向け情報' (Information for Business Operators). A search bar and a '読み上げ' (Text-to-Speech) button are also visible. A prominent yellow banner features a horse silhouette and the text 'ともに、前へ 仙台 復興と未来のために 東日本大震災に関する情報はこちらをクリックしてください'. The breadcrumb trail reads 'トップページ > ともに、前へ 仙台 —東日本大震災に関する情報— > フォトアーカイブ 東日本大震災—仙台復興のキセキ'. Below the breadcrumb, there are three links: '仙台市中心部/沿岸部拡大図', '写真の使用について', and 'サイトマップ'. The main content area is a large banner with a scenic view of a river and city buildings, overlaid with the text 'フォトアーカイブ 東日本大震災—仙台復興のキセキ'.

4 荒浜集落・小学校の遺構保存や中野・ 藤塚地区のモニュメント整備のあり方

荒浜集落・小学校の遺構保存や中野・藤塚地区のモニュメント整備のあり方

震災遺構の保存

荒浜小学校と荒浜集落の建物基礎



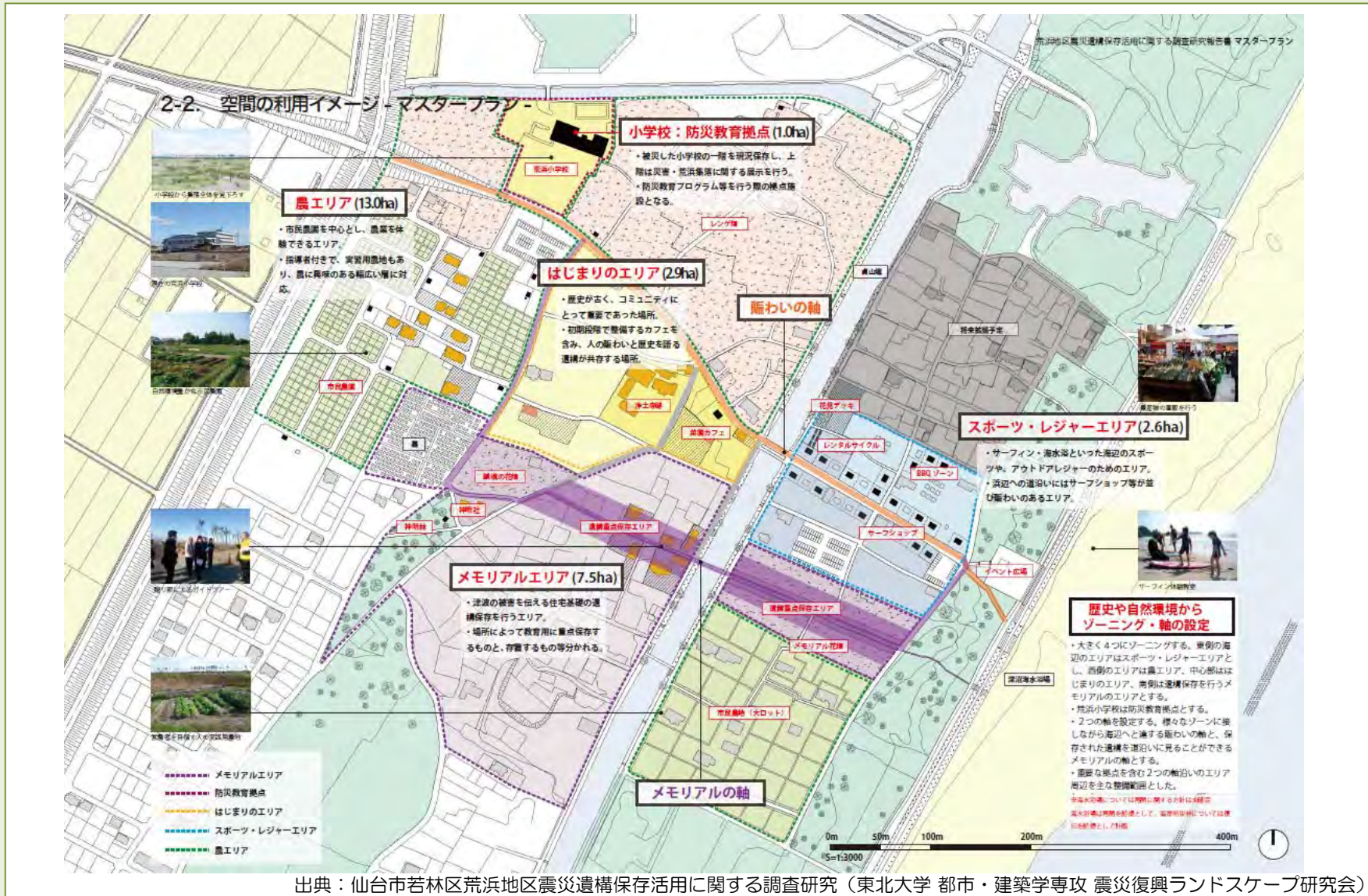
来襲した津波は2階床上40cmにまで達し、児童や教職員、避難していた地域住民合わせて300人以上が校舎に取り残されたが、地震発生から約27時間後の12日午後6時頃、全員が無事救助された。



小学校については、遺構として保存できるかどうかの調査のため構造診断を実施予定。

※ 現在、体育館は解体

荒浜集落・小学校の遺構保存や中野・藤塚地区のモニュメント整備のあり方



他都市の震災復興メモリアル事例

震災復興祈念公園（陸前高田市）

- ▶ メモリアル公園等整備事業（平成23～30年）
 - ・震災の記憶を未来に語り継ぎ、復興まちづくりと一体となって犠牲者の追悼や地域の防災拠点としての機能を兼ね備えたメモリアル公園等を整備。高田松原地区を公園の候補地として選定。
 - ・地元の熱意とともに公園のあり方について具体的な検討を行っていくことが必要と考え、平成24年に有識者と陸前高田市の市民代表による「高田松原地区震災復興祈念公園構想会議」を設置し今後も継続的に検討を進めていく予定。



高田松原地区震災復興祈念公園の役割・機能

参考資料2

祈念公園に求められる役割・機能及び効果	機能等の配置の考え方(案)
(1) 犠牲となった全ての生命（いのち）への追悼と鎮魂 ①生命(いのち)の尊さを問い続ける ②壊滅的被害を記録し、記憶を継承し、教訓を伝える ③復興への想いと力を国内外に発信する	追悼・鎮魂 ○犠牲者を慰撫するための機能 ○被害を記録・保存し、伝える機能 ○国内外に復興への強い意志を示す機能 等 市街地に近い一帯
(2) 津波防災地域づくり ①津波防災文化をテーマに交流拠点を創造する ②祈念公園利用者や市街地の安全を確実に確保する	津波防災 ○津波防災文化を背景とする拠点形成 等 市街地に近い一帯 市街地 ○市街地と一体となった公園利用者の避難機能 ○津波の威力を減衰させる機能 等 公園全体
(3) 三陸の歴史的風土と自然環境の再生 ①350年の歴史をもつ「高田松原」を再生する ②「古川沼」をはじめとする自然とのふれあいを再生する ③三陸沿岸地域の生活と文化を育んだエコシステムを再生する	高田松原 ○地域の自然や文化に根ざした原風景の再生 等 高田松原が存在した一帯 水辺再生 ○自然とふれあい、自然と共生する水辺空間の再生 等 古川沼が存在した一帯 エコシステムの再生 ○三陸沿岸地域を代表する自然環境や風土の再生 等 公園全体
(4) 地域の再生 ①まちづくりと連動して段階的に整備し、まちの賑わいを再生する ②祈念公園での市民協働が地域コミュニティの再生に貢献する	賑わい再生 ○地域の活性化の原動力となる拠点機能 ○様々な主体による協働の場として機能 等 市街地に近い一帯 市域全体



図 高田松原地区震災復興祈念公園の機能配置（イメージ）

復興のシンボルとなる公園（石巻市）

- ▶ シンボル公園整備事業（実施時期：平成23～32年）
 - ・震災復興のシンボルとなる鎮魂の森公園や多目的広場を備えた公園を整備。
 - ・旧北上川河口には震災復興のシンボルとなる公園を整備する。
 - ・中瀬や南浜町地区の公園については、震災復興のシンボルとして、これまでの石巻市の歴史を継承・発信していく観光拠点として整備を推進する。
 - ・南浜町地区（日和山と雲雀野海岸の間）については、宮城県と石巻市が協同で震災復興祈念公園を整備する。祈念公園の中核となる施設（追悼の広場など）は国営での整備が実現されるよう引き続き要望していく。

